

あらゆる分野のことを知っていて、
それを統合するのが経営者の仕事

——このように固執して、原理主義者になつてはいけません

聞き手／山口哲史（株）プロ・アクティブ代表
（株）ビジネスサポートあうん代表取締役
岡本 吏郎

2月15日号に続き、今回もマーケティングコンサル
タントで税理士の岡本吏郎氏にお話を伺い
ます。氏のお金や経営についての考え方、そし
て今後の抱負について語っていただきます。

先見
トップ・インタビュー
TOP
先見
interview



お客さんの前に 師匠を探しました

山口 岡本さんはいろいろな発想をお持ちですが、どなたか師匠のような方はおられるのですか。

岡本 師匠といえる方は禅のお坊さんがいます。ただ、ほとんど会うことはありません。お会いするときは、どうもタイミングがあるようで、「お前、それは違うぞ」と言ってもらえるようなときに会うようになってるんですよ。

山口 一人でもいたら違いますからね。経営者で師匠を持つことはなかなかできないですよ。自分のやり方やプライドが邪魔して、頭では分かっているけど、拒否をしてしまう部分がありますからね。

岡本 商売のことを分かる人ではダメだと思えます。お坊さんだからいい。経営やビジネスのことをあまりご存じないですからね。

例えば、何かやりたいことがあって相談しても、ビジネスとは関係の

ない非常に抽象的な話が出てきたりする。そのほうが何か気づかせてもらうことができます。

山口 岡本さんは、ビジネスをはじめたときに、まず探したのはお客さんではなく、そのお坊さんだったそうですね。

岡本 まあ、商売はなんとかなると思ったもので、まずは先に師匠を探そうと思いました。そんなことを考えていると、出会いは来るもので、仕事をはじめの前にはじめての出会いをいただきました。

山口 めずらしいし、面白いですね。

岡本 「面白い」とよく言われます。だから、最近はネタにしています（笑）。ただ、商売をはじめたら絶対に師匠を持つと、大学のときから決めていたんです。

山口 それは、「教え」や「本質」「本音」に触れて大事だなと思うようなことがあったからですか。

岡本 昔、安岡正篤さんや伊藤肇さんの本を乱読していました。伊藤さんは安岡さんのことを師匠だと言っていて「格好いい、これだ」と。大学卒業後、サラリーマンをやっていたときも、会社の上司で安岡さんのような師匠になる方を探したのですが、なかなか見つからなかった。

山口 それはいいですね。探してい

るレベルが違いますから。

お金は 交換の媒介物

山口 最近、お金に関する話が話題になっていますが、「お金」に対する考え方はいかがですか。

岡本 まあ、「なんでもないもの」だと思います。あえて言うのなら、「人間は交換せずにはいられない生き物で、お金はその媒介物でしかない」。

山口 人間は何かで交換をして、つながりを持ちたいと思うし、お金は表現物の一種ですよ。

岡本 以前、投資家のウォーレン・バフェットが、マイクロソフト会長のビル・ゲイツの財団に寄付して世界を驚かせましたよね。あれこそ、まさにお金の使い方ですよ。自分のためだけに使っても、驚かせる要素はまったくない。これはお金に対する裏切り行為です。

僕は、「お金を持つ」ということは〈驚かせる義務〉を持つこと」だと思っています。

山口 それがビジネスの原点でしょうね。

岡本 お金という存在自体が矛盾していて、お金というものは結果として

お金を持つことは〈驚かせる義務〉を持つこと